

——花と海と太陽の祭典——「第四回神戸まつり」が、今年も五月十八日（土）、十九日（日）の両日を中心に全市で盛大に行なわれます。宗教的、歴史的な「いわれ」のない祭が、大都会でできるのは、実に素晴らしいことです。その秘密は、市民の皆さんの「心」、「意気」がひとつになって「市民による市民の祭典」を作り上げるところにあります。

今年の神戸まつりも皆さんのがんばりによって作り上げられました。明るい太陽のもと、山の緑、青い海を背に、日頃のかみしもをとって、大人も子供も一緒になつて、思う存分歌い、踊り、遊ぼうではありませんか。まつりを通して心と心のふれ合いが生まれ、新しいコミュニティが育ち、神戸が本当に心豊かな住みやすい街にならぬでしょうか。

今年も、各地域のまつり、中央行事、多彩な協賛行事の三つで構成されています。新しい企画としては、北区が盛大に「きたきたまつり」を催し、新しく仲間入りするほか、カーニバルの本場ニースの民族舞踊団チアマダニッサルダが楽しいショーをお見せし、リオのカーニバルに参加したアフリカ・アカンバ・ダンサーズが皆さんと一緒にサンバを踊ります。更に神戸在住の外国の代表として「プリンセス神戸」を新たに選んで、クイーン神戸と共に公式行事、地域活動等に参加して、皆さんとの交流を大いに深めていただきます。又企業に一層の参加を呼びかけ、将来企業とその地域の人々とが一緒にまりをもてるようになればと考えております。

まつりは、日頃のエネルギー爆発の場です。一年いろいろ想を練り、その過程でわが街神戸をもう一度見つめなおす。そこに又いか新しいものが生まれてくる。こんな「神戸まつり」をみんなで楽しみ、みんなで成功させようではありませんか。

神戸まつりなんてとおっしゃらず、あなたが主役なのです。それぞれの立場で積極的にご参加ください。

★わたしの意見

今年の 神戸まつり

岡崎典昭

△神戸市市民局相談部長
△神戸市民祭協会事務局長





●三宮の楽しいショッピング・オフィス街への出勤に
末積カーポートビル

近代的な
立体駐車場
150台OK



●普通車30分=¥100

スピーディな駐車 親切な応待—

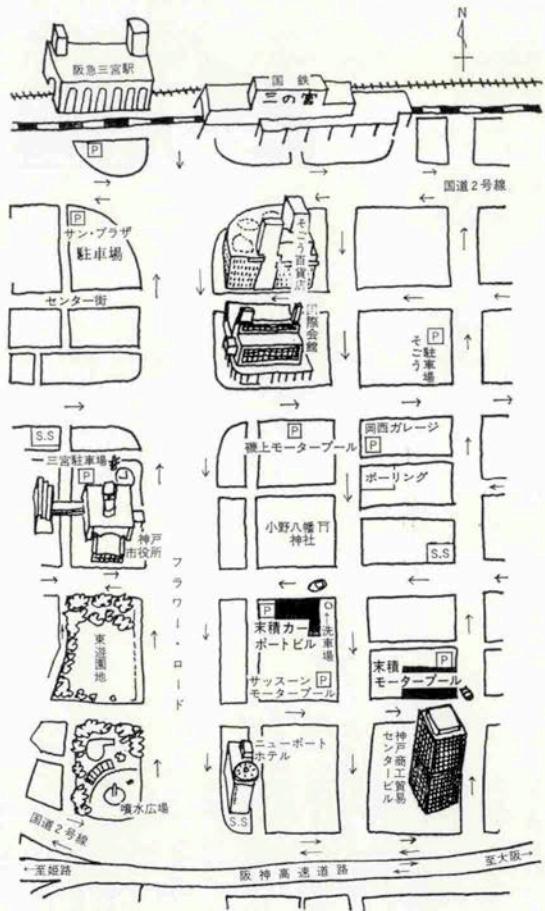
- 冷暖房完備・TV付の
待ち合い室もあります。
- あさ8時——よる10時(日・祭日営業)



末積株式会社

神戸市葺合区磯辺通4丁目6番地ノ2

TEL 078 (221) 9887



隨想三題



〈カット／内ヶ崎 嶽〉

凝性の街

内ヶ崎 嶽
（翻訳家）



そろそろビールの美味しい季節である。夏のムードに欠かせないのがハワイアン音楽、とりわけ、スチールギターのあの甘美な旋律であるが、そもそも、スチールギターなるもの、十九世紀の終り頃

に、ハワイで土人が奏法を発案したもので、当初は、普通のギターを、椅子に坐って膝の上に上げ乗せて演奏していた。当時は、ハワイアンギターと呼ばれており、このスタイルは、一九三〇年頃に、電気ギター、つまり現在の形のスチールギターが考案されるまで続いた。

日本にハワイアン音楽を紹介し、ハワイアンギターを最初に持ち込んだのは、ハワイ出身の二世、灰田可勝氏（歌手の勝彦氏の実兄）で、一九二三年に来日しており、その後、「一九三三年に、これもハワイ出身の白片力氏（芸名「バッキー・白片」）が来日し、

共に今日まで日本におけるハワイアン音楽の普及に貢献して来たが、生粋の日本人で不世出のハイアンギター演奏家といわれた名人がいた。村上一徳氏（故人）で、戦前のハワイアン音楽ファンなら知らない人はいないが、この村上氏が育ったのは実に神戸なのである。氏は神戸商大の学生時代、サンクロス・カレジアンという名のバンドを組織して、神戸を中心に行き交際活動をし、卒業後も関西を中心に活躍を続け、JOKから放送などもおこなっている。その間、本場の一流演奏家見たさに、ハワイやアメリカ西海岸に渡つて、その土地のナイトクラブだけを見て帰ってきたというから、物好きというか、凝り方は相当なものであった。

ところで、商店にしろ、スナックにしろ、その主人の凝り方が感じられて何とも楽しい気分になる店が神戸には多い。こんなに凝った趣向の店だと、さぞかし開店前は、凝り過ぎ故に相当のリスク覚悟で、いわば賭けた心境ではなかつたかと察せられて微笑ましい。「勇気とは、成功の保証がなくても、試みとしての人生を生き抜くこと、結果を求めず、失敗を恐れず、大胆に」とは、哲学者ヤスバースの言葉であるが、「勇気ある」凝性の人が出した店は、戦前も

神戸に多かったと聞くし、村上氏のよう凝性の人をも育てた何かが神戸にはあるような気がする。

先日も、ある店に立ち寄ったところ、何と一九二〇年代のスタイルでハワイアンギターを演奏しているではないか。昔のハワイアン音楽の好きな私は、欲しがついた古美術品を骨とう屋で探し当てるような気分であった。この時演奏していた御仁、見るからに物好きでこのスタイルの演奏に凝り固まっているといった感じで、一九二〇年代以前の曲を、いちいち作曲年代などを解説しながら演奏していた。こんな古臭い曲を昔のスタイルで演奏する人も人だがさせがそこに巣喰っている、神戸とはそういう街かも知れない。

かしこくなる
"やいと"

福来四郎

〈神戸市立盲学校教諭〉



私は、今は盲学校の美術のセン

セということになつていて、やはり、いとという秘技がある。私は盲学校へ結びつけたのも、この技のしからしむるところであろう。私とやいととの出会いは、北支那派遣の一兵卒の時にはじまる。

軍隊教育を批判したのがバレて、野砲兵長はえん戦的傾向があるとして隊長ににらまれ、これ以上進級することはなかつた。そこで、私は演習でないですむ風呂呑きの使役を連日志願した。風呂がわくとまず隊長が入るのが通例となつてゐたが、私はその前に汗を流していた。

その後、防空壕掘りで受けた足の傷が化膿して、毎夜熱をだすよくなつた。不寝番は頭をひじいてくれたが、あてにならないものであつた。ある晩、極めて正確に時間をおいて冷たいタオルが交換されるのを感じた。私はその兵が誰であつたかしらないが、その温情が今も忘れられないものである。回復にむかつた頃、部隊がラバウルに行くうわさがとんだ。弱りきつた私の頭に、やいとが浮び上つたのはこの時である。婦人雑誌でおぼえていたたつた一つのツボ、それは足の三里の灸であつた。火をつけた時、靴音にきづいた。ふりむくと部隊長が立つ

ていた。足をむきだしたまま敬礼した時、火のついたもぐさは靴下の中におちた。

「アツツ、一」

腹をえぐり上げるような熱さがぐーんとこみあげてきた。汗と涙がにじんできた。

「やいとをしつとるなんか」

隊長は微笑を浮べて去つていった。

「ハハッ！」

かくして私は復員後、鍼灸学校の夜間部へかよつた。

二年後、鍼灸師の試験が各府県におこなわれるのをきくと、学校を卒業したことにしてもらつて受験した。二つの県で受けたところにいずれにも合格した。

私は今も毎日のように、学校でやいとかはりをする。もぐさと線香の臭いが廊下を流れるとき、盲児たちの鼻をだしまおせない。

「センセ、私かてやいとしとんねんでー！」

スカートをまくりあげた女の子のへその上に、古いあとが残つていた。

「センセ、かしこなるやいとや、眼のよう見えるやいとはないんですか」

「センセは、頭に毛のはえるやいとをしたらええねん」

私は自分の頭や顔にはりをうち

つづけた。今、老眼化していく眼は成果をあげつつある。かしこくなる父は、やがて私の仕事に示現することであろう。

「センセ、学校やめたらボクとへきよ」

鍼灸師のことも、親切にいつてくれた。盲学校を停年退職して、はり、やいとで生活している自分の姿を想像すると、ゆううつになるのはどうしてだろうか。

「セントノーレのファッショーンには殆ど無縁といつてい。

私はシヨッピングなどをするの

は、モンパルナス界隈、サンミツ

シエルあたりが多い。若い人向きのものや現代的なファッショーンはこのあたりが多い。最近婦人物ではオペラ座通り付近も人気があるようだ。

大体、感じとしては、パリのファッショーンについては、すべてに部厚さや、底の深さを感じる。

洋服ひとつでも、一年前に買っ

た客を旧知のように迎えてくれる。そして、商品については頑固に自説を押し通す。

「あなたには絶対この色でなければならぬし、このスタイルでなければならぬ」といった調子で親切をとおり越している——こんな時、ふと日本の呉服屋さんを想い出すことがある。

三年前に鴨居玲先生と一緒にスペインに渡り、私はパリに住みついた。そして二年、ことし、二月東京の日動画廊での個展で久し振りに帰国した。

——最近のパリの様子はどうですか、ファッショーンなどはどう思われますか——といったことをよく聞かれた。

私は絵描きですからファッショーンとは直接関係はないのですが、少

なくとも、シャンゼリーゼやサントノーレのファッショーンには殆んど無縁といつてい。私がシヨッピングなどをするの

は、日本ではこんなにはいかないが、日本ではこんなにはいかない、胡散臭い——表情が何んとこのあたりが多い。最近婦人物ではオペラ座通り付近も人気があるようだ。

文化やファッショーンが深く生活に根ざしているということであり、その根強さというものは伝統の重みがバックボーンになつていて。

だから、パリはただ、現代のファッショーンをリードしているといつたようなことで、パリのファッショーン文化をみていては何の理解も得られないと思う。

パリの市民のなかに深く沈潜して静かに息づいている文化の部厚さとファッショーン文化とがからみあってパリのファッショーンがあることを理解することが大切だと思う。最近、神戸でもファッショーン都市というようなことがいろいろすすめられているという。

神戸らしい、いいことだと思うが、このファッショーンと文化の関わりあいを十分ご理解あることだと思う。つまり、神戸独自の文化のなかから神戸のファッショーン文化が生まれてくるのであって、文化的土壤がなくてはファッショーンは育たないということである。



岩島雅彦
〈洋画家〉

パリの街から

岩島雅彦

を描く仕事をなさっているというのは素晴らしいことだ。このアパートでは始めてのことだが、大変嬉しい」というのである。

お世辞であるというのは判つてゐるが、日本ではこんなにはいかない、胡散臭い——表情が何んとなく残つてしまふ。

これは、ほんの話に過ぎないが、文化やファッショーンが深く生活に根ざしているということであり、その根強さというものは伝統の重みがバックボーンになつていて。だから、パリはただ、現代のファッショーンをリードしているといつたようなことで、パリのファッショーン文化をみていては何の理解も得られないと思う。

パリの市民のなかに深く沈潜して静かに息づいている文化の部厚さとファッショーン文化とがからみあってパリのファッショーンがあることを理解することが大切だと思う。最近、神戸でもファッショーン都市といふようなことがいろいろすすめられているという。

神戸らしい、いいことだと思うが、このファッショーンと文化の関わりあいを十分ご理解あることだと思う。つまり、神戸独自の文化のなかから神戸のファッショーン文化が生まれてくるのであって、文化的土壤がなくてはファッショーンは育たないということである。

□ある集いその足あと

ムジチ・ジョバー二同人

中 村 健

（ムジチ・ジョバー二同人）



コンサートをひかえて真剣な練習風景

音楽学生がその成果を示す機会といえば、カリキュラムに組み入れられた演奏会やテスト等、限られた範囲以外に殆どありません。しかもそれらは演奏形態や様式、時間等すべての面で制約されたものでしかなく、発表の機会を自分で作り出そうと考えるに至ったのは極めて自然なことでした。又、我々は音楽活動がどうしても東京中心になりがちな現状にも不満をもち、なんとか地元神戸で演奏会をという結論に達したのです。

44年最初に実行に移したのが藤原治道（当時東京芸術大学声楽科二年）で、兵庫県出身の声楽科仲

間に呼びかけ神戸国際会館小ホールで演奏会をもちました。どうして「おとなのおさらい会」的雰囲気から抜けないものでしたが、しかしながら以後の活動の布石に充分な成果を確信した彼は、ひき続き第二回の演奏会を企画実行に移したのでした。それは「歌曲と室内合奏の夕」と題し翌45年の9月神戸海員会館で行われたのですが、プログラム的に一応整った形にする事ができ、対外的にアッピールできる体制となりました。第三回は翌46年8月芦屋ルナホールで新たにピアノ科も加わり、さらには発展させた形として盛況のうちに終える事ができました。「IL CONCERTO DEI MUSICI GIOVANI」（若く音楽家によるコンサート）という名称はこの年に生れたものです。

この回のマネージメントは私が担当したのですが、演奏会を開くのがいかに大変であるかを身をもつて知られた次第です。私は第二回に伴奏者として参加したのが第三回のマネージメントを担当する直接のきっかけですが、第四回マネージメントの季善銘も、第二回にヴィオラ奏者として参加したのがそもそも始まりです。第四回は48年4月に「バロック音楽の夕」と題して兵庫県民小劇場で行なわれました。この回にコントラ

バス奏者として参加した文屋充徳（現四年在学中）は北海道旭川の出身ですが、神戸の女性と食物にとりつかれ今回マネージメントを担当しました。

この四名を中心とした演奏活動を続けてきましたが、メンバーは東京芸術大学の兵庫県出身者を中心に約30名。各々の個性を尊重する極めて流動的な組織であり、今後誰がどのような演奏会を企画し行うかもわかりません。ただいろいろな形態の演奏会ができるよう、演奏者、作曲編曲関係、マネージメント等気軽に応じてくれる仲間がまわりにいるということです。

五回の演奏会はそれぞれに印象深いものがありますが、なかでも第二回の高垣純（47年作曲科卒）の作品と、その作品における藤原治道の名唱、第三回の後藤富美雄（48年ピアノ科卒）のピアノ独奏（エロイカ変奏曲）、第四回の練習のゆきとといたアンサンブル、今回のシユーベルト八重奏曲における若々しい演奏等は特に記憶に新しいものです。未熟な我々ではありますが、財産である若さを發揮し、より立派な演奏会を続けることが、いろいろお世話下さった諸先生、諸先輩、同声会の皆様、美術学部の友人その他大勢の方々のご好意に報いることと思いつゝ勉強を続けていくつもりです。

新緑の季節 六甲の初夏をお楽しみください



シンギスカン料理

3000円

3500円

4000円

7000円

六甲オリエンタルホテル

TEL. 891-0333

霧笛

— わが小説の神戸

三枝 和子

〈作家〉

え・石 阪 春 生
〈洋画家〉



長田神社から少し山手寄りの明泉寺町の友人宅に下宿して関学へ通っていた学生の頃から、一度、港の近くの、それも霧笛の聞こえるアパートに住んでみたいと思っていた。

卒業して二年ばかり市立上野中学に勤め、毎日阪急西灘駅へ通つたが、このときのアパートも西宮であった。昭和二十六、七年頃までの話で、当時、神戸市にはまだ焼跡が残り、本格的な復興はなされていなかつた。お金との相談もさることながら、アパートや下宿そのものがなかなか自由に見つからない時代でもあつた。

小説を書くようになつてからは、時折、田舎を脱け出して市内のホテルに泊つて神戸の街を取材

することもあるが、そうした朝がた、霧笛が聞こえて来ると、きまつて若い頃のその願望を思い起すのである。

霧笛。物悲しい、獣の咆吼に似た重い響。東港の方角だ。M埠頭へは早朝に碇泊する船があるのだろうか。彼は、耳を澄まし、幾つ目かの、その霧笛の余韻を追いながら、港とこのスタジオとの距たりを測つてゐる。乳色の濃い靄に掩われたまま、街は、まだ深い眠りの底に沈んでいるに相違ない。

私が昨年秋、上梓した書下ろし長篇『乱反射』

のなかの一節である。主人公の二十歳の青年が、思慕する年上の従姉と、その従姉が愛している中年のカメラマンと、カメラマンのモデルで従姉のレズの相手らしい女友達とのあいだにひき起される奇妙な四角関係に巻きこまれて過したヌードスタジオの一夜の翌朝のことである。

大人たちの淫靡な性関係に翻弄されて疲れきった青年の空白な心に、是非ともあの霧笛を響かさなければならぬ。おそらく私は無意識にそう考えていたのだろう。そのところは極く自然に出来あがつた。というよりも青年の心に霧笛を響かすことにしてから、ヌードスタジオの場所を港の近く、というふうに決めたような気がする。

私は頭のなかに、貿易センタービルから国際会館までのあいだの、モーターブールなどの多い建物の一角を想定した。一時は、和田岬あたりでもいいような気もしたが、何とはなくそぐわなくて止めた。和田岬あたりの、どこか殺風景な眺めが好きで（ここ十数年見ていないので変っているかも知れないが）「W岬周辺」という小説を書いている私だが、ヌードスタジオのある場所としては、そこは不適当だ。そう思えた。

もつとも、だからといって貿易センタービルと国際会館までのあいだの建物のどこかにヌードスタジオがあるというわけではない。これはあくまで架空の話である。ただ私の小説の神戸では、それらモーター・ブルが散在する建物の一角に、幾分ハイカラで退廃した雰囲気を漂わすヌードスタジオが、ひとつそりと存在していなければならぬ。そしてその一室で、私の年若い主人公は、横に寝ているモデル女の眠りを妨げないように起き

出して、カーテンと窓硝子とのあいだの、狭い薄明りの空間のなかへ身体を滑りこませて港を眺めるのである。

こんな朝、年若い男が何を考えるのか、私は知らない。だから、彼が眺めた港の風景を描写するだけだ。

夜は、いま、しらしらと明けていくところだ。

ほとんど一晩中降り続いた雨が止み、港の方向から早い速度で藍色の雲が流れ来る。藍色の雲は、もう決して雨雲ではなく、一日の晴天を予告する透明なインクの色で、刻々に形を変えながら、風に吹きさぎられていく。薄く、軽やかな雲の塊の周辺が、海からの太陽によつて、とき色に染められていくのは、もうすぐだ。

霧が湧き始めたらしい。あまり深くはないが、細かい空気の粒子が、物の輪郭を煙色にじませる程度の霧だ。こういう日には、霧が晴れたあとでの港の風景が鮮やかなのだ。水平線から突堤に林立する倉庫の壁際までの空間に満ち渡る硬質の空気のために、港は、一瞬、宝石のように輝く。

それから霧笛が響いて来る。霧はいつとき濃くなり、それから次第に晴れていく。私はそうした神戸の港の顔をこよなく愛している。私が本当に書きたかったことは、主人公の青年の内面よりも、むしろ港の風景だったかも知れぬ。私小説を書かない私が、たったひとつ正直に告白しているのは、神戸に対する愛着だと、この頃しきりにそう思う。

□れんさい隨想(1)

ふるさと

故郷

秦 砂丘子

〔デザイナー〕

え・松本 宏

△洋画家▽

子供の頃、極度に内気ではすかしがり屋だった私が、それだけ譲らなかつたことがある。箕面自由学園と神戸女学院への入学である。考えてみると不思議なことに、自分の人生への選択に対しても非常に頑固であった。

箕面自由学園を卒業し、中学校を決める時、まづ第一候補は、当時「十四」といっていた豊中の府立高女であり、第二候補は、どうということもなく私が選んだ神戸女学院であった。

当時私は、箕面線の桜井という所に住んでいて、頭の良い子は、私の界隈では、だいたい「十四」に行つたようだ。私の姉もそうで、その自慢話は、家中の夕餉の席を、たえず明るくしていたものだ。

私が神戸女学院をどうということなく第二候補に選んだのは、本当に漠然とした空気のような気が

持からだつた。理由は何もない。幼い頃、私はとてもうぬぼれていて、私が「十四」を望めば、そうなるものと確信を持っていたので第二候補など、私にとっては、つけ足だけの意味しか持たなかつた。

その当時、試験は、私立の方が先に始つた。ある日、願書を出すために門戸厄神の駅を下りた。人っ子一人いない駅だつた。母と共にであつた。不思議に、季節はおぼえていない。多分、早春だったのであろう。

広々とした畠の中を通つて曲りくねる路があり、私はそれに導かれて、はるかにみえる岳をめざして歩きだした。勾配の急な坂をのぼると、今私達がいた西宮平野が眼下に拡がつていた。空が青かつた。空気が澄んでいて物音一つしなかつた。赤松の林がつづき、鳥が遠い所で、チ、チ、とないていた。



だらだら坂をのぼり切ると、突然に視界が広が

り、四角い芝生、桜並木、藤棚などがみえた。学校の白い建物は、その奥にあった。それはちょうど、秘境のような印象であった。

帰り路、同じ路を辿りながら、私は興奮していた。私の心は、すでに決まっていた。「ここだ」

「ここに決めた」。どういう風にして母にいつたのだろう。私がいわずとも母には、もうすでに解っていたのかもしれない。

私の家は貧乏だったから、私が「十四」に入つた方がよいことは、私も百も承知していた。私は、わがままだったのだろうか。でも母は、私という人間が何かを決意すると十年でも二十年でも決して変らないということをすでに知つててくれた。それにまた、普段、細かな要求をしない子が何かを望んだということを高く評価してくれたのかもしれない。ありがたいことに、私はここで、中学部、高等部、大学部と九年間をも過ごしたのであつた。

人間といふものは、ある時、突然に出会った情景が異様に気に入つたり、心に忘れられなくなつたりするものだ。

私の友人でフランス女性だが、生れはブルタニユ。暗い海と灰色の空をもつ地だが、二十才の時、初めて南仏プロヴァンスと地中海を見て、「これが私の故郷、ここでいつか死にたい」と願つたそうだ。以後、日本にいても、彼女は毎日プロバカンスにあこがれていた。今は望みかなつてその地に住んでいるが。ゲーテやポール・クレーがイタリアに憧がれたように、人はある時、ある地

で、自分なりの啓示を見る。

私にとっては、神戸から岡田山につづくあの地形がそうであった。海があつて、山がせまつている。なだらかな傾斜をおう赤土と白い家々。そして暖かい赤松の林。いつも太陽が舞つていて、すべてが静かだった。

学校では、あまり勉強したという記憶がない。今、思つても不思議だけど、友達と二人朝から、関学まで散歩し、すすきの茂った日だまりでおべんとうをたべ、風に吹かれて昼寝をし、午後の三時、やおら起き上つて、その頃、喊声を上げて校庭に飛び出してきた級友達と合体して、ソフト・ボールをやつた。

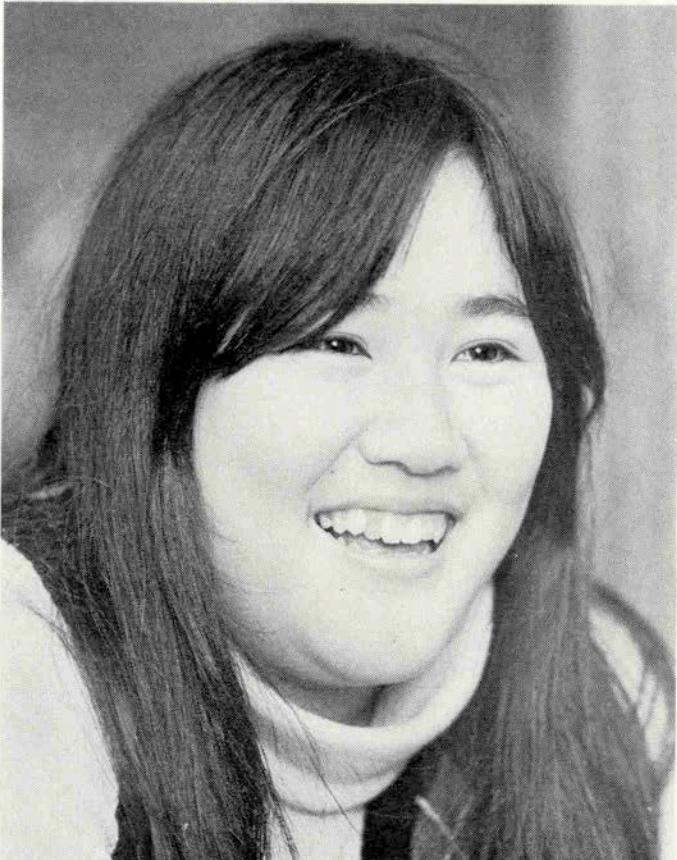
高二から高三までは、寄宿舎にいた。週に一度位だつたか当番で、駅の近くのパン屋に、コッペ・パンをとりに行かなくてはならなかつた。食糧難の時機。本当に飢えていた。それにつつも午後の四時。フカフカのパンは背中で素晴らしい香りを立てていた。「たべてしまおうか」友達が一瞬そういつた。本当にそうしたかった。私達はしかし、たべられないでパンを背負つて学校に戻つた。あの誘惑に耐えた沢山の曲り角のある道。

三年前、東京からあの道を探して車をとばした。道はなかつた。沢山の家々ができ、あとかたもなかつた。しかし、私の想い出は、その家々を通して、小さな道を創つた。そして、それは、レンゲやタンポポと共に、いつまでも私の中に燃えつづけていることであろう。

□ インタビュー □

明るい素顔の神戸っ子

—「あなた」の小坂明子クン訪問—



三ヵ月余で二百万枚。爆発的なヒットをとばしたレコード「あなた」。その作詞、作曲から歌までうたつた高校三年生、小坂明子クンにインタビューしてみました。現代の奇蹟だの『今様シンデレラ』だと評判は高いのですが、会ってみれば何のことはない。どこにでもいる、ちょっと甘ったれの、コロコロふとつたオンナの子です。テレビで拝見する、あの人工装飾だけのジャリタレントとは全く無縁の、健康な素顔と一緒に眺めてください。好きなもの「チャーハン」「きらいなもの「数学」。それと、「责任感のない人」なんだそうですよ。

「私、その方面、おくれてたから、たいてい両親と一緒に。友達と行くようになったのは、中学の三年ぐらいからかなあ」

西宮市苦楽園口にある自宅の応接室。
トントントンと二階から降りてきて「いらっしゃー

大阪音楽大の付属高校へ進学したころから、いまの西

宮へ転居した。

「でも、神戸って街、日本で一番スキ。山があつて海があつて、明るくつて……」

同感！

クロウット筋の評――。

「あなた」つての、曲がいい。きっと、音感がすぐれてるのだろう。歌は、お世辞にもうまいとは言えないナ。歌詞は、甘さ、清潔さ、感傷……で、まあ年齢相応のできばえ、かな。

「歌はねエ、特別に勉強してないんです。発声とか合唱なんかを授業でやつただけ。人前で歌つたこと、なかつたんですよオ」

なのに、あの記録的な売れ行き。なぜだろうか――と聞いたとたん、ケラケラ笑い出した。甘くて、明るくて、屈託のない笑い声。

「ソレねえ、わかんないんです。きっとねえ、はじめのうち、テレビに出てなかつたからやないかな」そしてまた笑い。

話の意味、五秒ほどあとで了解できた。「私、こんなにふとついて、美人でもないけど、TV出演するまではそれがバレなかつた。だから、レコード売れたと思う」と、親愛なる明子ちゃんは言おうとしたのである。いじらしい乙女こころ、ではない。カッコよくないことになんか平気の平左。私が歌をたのしみ、それを聞いて皆さんもたのしんでくれてる。シアワセ！ というアッケラカンとした幸福感であろう、これは。

「体重のこと、早く聞いてくださいよオ。答えませんから」そしてまた例のケラケラ。

テレビに出てからもレコードが売れているのは、こんな地の今まで演じている親近感のせいナノダ。

「いえ。あなたの姿みてガッカリした。もうファンになるの、やめます。つて手紙も来てますよオ」

でも、この高校生、いたい事もいう。

「歌が上手なことよりも、歌以外のいろんなことをできる方が売れてるでしょ。アレ、間違っていると思うんです」

「人気って、すごくむなし。カッコさえよければ、誰にでも、そつくりショーンのニセものにだつて、キャンキャーいうんだもの」

では、小坂明子よ、お前の実力は如何。

「これ（『あなた』）一曲しか売れない一発屋で終るかもわからんないけど……。ホントの力とか価値は、LPやら、あと二、三曲出して、リサイタルでもやつてからでないと認めてもらえないと思うんです」

ハキハキと、笑顔を絶やさぬ受け答え。

父親は作詞、作曲を手がけ、バンドも持つておいた歌道のプロ。兄もピアノを業とする音楽一家。だが、血筋や天分だけではない何かを持つていて。

「でもねエ、ほんの遊びのつもりでつくっておいた歌が音楽祭でグランプリ、レコードになればアッという間に当たつたでしょ。自分の気持、まだプロに徹していくんですね」

「将来は作曲家でいきたい。だって結婚して、三十、四十にもなつて外で歌つてたら、私の家のような暖かいムードのある家庭つくれないでしょ」

わかった。君は若いくせにマイホーム型。

「ええ。私、自分の家に満足してる。だから、私の子供にも私のような幸せを味わせたい」

優しい両親に大事に大事に育てられた末っ子ちゃん。その環境と思想が産み出した「あなた」の大ヒット。当然ですよネ。





スキのない服装からダイナミックな男のドラマが始まる——。
日本の商社員が赴任先のヨーロッパで屢々指摘される服装のワースト3は、①ワイシャツのダブダブ、②流行ラインから外れた服装、
③色のコーディネイトの悪さということです。この三点がビシッと
決ったとき、そこから男だけのドラマが生まれるので。

LADIE'S

San Sakae

MOTOMACHI-1 ☎ 331-7885

MEN'S

San Sakae

MOTOMACHI-2 ☎ 331-5121

第4回神戸まつり特集(1)

—花と海と太陽の祭典—

座談会

身銭をきって大いに遊ぼう

山脇 陽三
(神戸市民生活協同組合
専務理事)

妹尾 美智子
(神戸市婦人団体協議会
会長)

貝原 六一
(画家)

川端 欠一
(オール関西編集部)



★おっちょこちょいのやるまつり

山脇 神戸まつりのユニークなところは、まず、ハッキリとした形がないということ。それに、国際多勢まつりに参加する。また、家庭婦人がまつりを支えていることも他に例のことですね。家庭婦人がこれほどまつりの中軸をなしているのは珍しいですよ。若者も形にとらわれずに自由に参加して、よくぞ、これほどまでにまつりのなかにとけこんでくれたなど感じられる。これもユニークな点であります。それと、子供が各地区で非常に積極的に参加してくれる。

今年は十八日の土曜日は学校も休みだと決つたし、余計、子供の参加も多くなるでしょうね。

過去のみなと祭りとか神戸カーニバルの流れが、年々われわれの望んできた方向へ近づいてきて、人と人とのコミュニケーションをよくするというまつり本来の狙いからいつても地域が非常に盛り上ってきたということは、色々と批判はあるとしても、神戸まつりらしい成長の仕方じゃないでしょうか。

妹尾 みなと祭りが非常に批判を受けて、神戸まつりという形に変わらざるをえなかつたわけです

が、この転換は非常にうまくいつたと感じますね。みなと祭りでは行政の力が前へ出てきて、いわば、官製のまつりだと批判を受けた。それを市民のまつりに戻そうということだったんですが、そうなってきましたようですね。今の形態は行政と市民とが一体になつて、市民参加でまつりをつくっているようですね。

普通、まつりというと神社とかお寺とか、宗教がかんでくるものですが、そういうものがかままで市民と行政とが一つになつてまりをつくり上げるという形は、神戸ではうまくいっているなあとう気がします。

最初、神戸まつりの特徴を出すとき、神戸とはどんなまちやと考えたんです。何かしら寄り集まりで、おっちょこちょいで、新しがり屋で、バカに人がエエというところがあるわけですね。そういう諸々が神戸まつりに出てきたんじゃないかな。

おっちょこちょいの最たる姿は家庭の主婦がバーッとまつりに出で行く姿なんですよ。また、若い人たちがスマースにとけこんできただということ。これも、おっちょこちょいのせいですね。おっちょこちょいとおっちょこちょいがワーッと出てきて、それが寄せ集めの雑魚煮みたいなまつりとなつて



妹尾美智子さん



山脇陽三さん

きたんですね。それは神戸のまちの特徴なんぢやないでしようか。

神戸のまちの特徴がそのまま神戸まつりの姿になってきた。この辺はよかつたなあという感じです。

貝原 形がないということが、僕らの場合ととても参加しやすくなっていますね。今のまつりのあり方というのは、神戸カーニバルでてきたんですよ。それが神戸まつりに移行して、今年で四回目になるんですが、これを定着させるために、ここから、最初に戻つて、もう一度基本的な姿勢を考えないといけない時期ぢやないかな。惰性で流されるのじゃなくつてね。定型がないといわれたけれど、

常に新しいものを考へることが必要ですね。過去やつてきたことをそのまま受けついでやるだけじゃ自動的に動いて行きますが、そうじやなくて、動くときに悩んでくれる状態が欲しいんです。そうすることで参加者が増えるのぢやないかなあ。まだまだ考へる余地があるのぢやないかという気はしますよ。

また、宗教につながっていないことなんですが、では、何につながっているのかというと人間性と自分自身につながっているんですね。まつりというのは自分のためにやつてあるのであって、人のためにやつてあるのぢやないです。だから、参加する一人ひとりがオレのまつりだと思ってくれないと具合悪い。

形がないということ、参加しやすいということを最後まで通したいですね。切符を切つて、許可をもらつて参加するのぢやなくて、どつからでも入つて行けるような形態ということが大事ぢやないか

なあ。絵書きとか文化人とかはまつりに参加しないで批判ばかりするんですが、その連中がアトリエから出てきたということは成功だったなあ。(笑)

山脇 警察発表では昨年は二日間で百八万人が参加していますね。パレードで六十五万人ですか。見

て楽しんでいる人も含めて、これだけの人を動員できるのだから、まったく、おっちょこちよいであることには間違いないわけですよ。陽気な神戸っ子らしい素晴らしいエネルギーですね。

川端 四回ともなると今までの神戸まつりに対する不満みたいなものが序々に色んなところで火を噴いているのぢやないですか。

川端 お父さんやお母さんといつた大人は大人の力でやつてくれ。われわれ若者は若者でそれに対抗しないといかん。若者同士でもつとやりたい方向へもつていこうといふところがありますね。

貝原 青年広場は主張するね。規則みたいなものがないのやつて頑張ろうということですよ。

★まつりのモニュメントを

山脇 今回の一つの特徴として、各地区の行事に身体障害者の参加がみられますね。今年は四地区ほどあるんですが、大変結構なことですね。身障者の方々も見るだけじゃなく参加できることはいいことですよ。

貝原 兵庫区では目の見えない人も踊るそうですが、みんな同じまつりをやるのだから絶対にいたわ



川端敬一さん



貝原六一さん

大学の芸術学部の学生が幼稚園児に絵の指導をしながら、それを壁画にちやつて芸術広場のなかに飾つてしまふ。

妹尾 今年はパレードの方は時間が延びましてね。遅くまでフラワーロードを開放するそうです。

貝原 今年は壁画以外に懸垂幕をやりたいんですよ。あれは水性ペイントで描いてますから残せるんです。今年から毎年三十本ずつつくら来年には六十本。これを

山脇 今年の新しい企画では、在神外国人のプリンセス神戸が新たに選ばれる。二十カ国二十名ほどのお嬢さんに出てもらう予定です。それと中央パレードに南フランスのニースから参加する。シアマルダ・ニッサルダ民族舞踊団というグループですが、四十名ほどで花を添えてくれるんです。

妹尾 これは神戸でないとできないことですね。

貝原 芸術広場では、子供たちに壁画を描かせようということで、十カ所の幼稚園でやります。芦屋

ルモニュメントというものが欲しいですね。

川端 うちはもっと現実的で、序々に舞台装置や楽器を揃えていくようにしています。

貝原 昨年のまつりが何か残つていて、その上にのっかかるつていく

といふことですね。ところで、婦人団体の有志が芸術広場でダイコンを売るとかということはできませんですかね。

川端 それを青年広場でやろうかという案もあつたんですが、やっぱり主婦の方に任せようとなつたんです。(笑)

妹尾 ただ、今はインフレで平素の生活が厳しいでしょう。だからまつりにまでそういう厳しさをおわしたくないんですよ。むしろこういうときはダイコンがいくらしておろうと、そんなんそっちのけにしてしまえという気持ちね。

不景気だからこそ、生活の厳しさをかなりすてて、厳しさから逃げたいわけでしょう。

川端 青年広場の方は、これまでよりもっと若い人を入れようといふことで、この間から色々と集つてもらつてアイデア会議をやつてゐるんです。そのときの話に出てきたんですが、シラケムードの若者とそうでない若者がいるんですね。

貝原 まつりがよかつたらそのシ

船から降りて港から市役所に行くまでの間にそれらがズーッと並んでいた。まつりが済んだら何かもボツとなくなるのじゃなくて、まつりの形をどこかに残していくみたい。カーニバル彫刻、カーニバル

みで、こんな格好のものが何か神戸でもできんものかと考えておつたんです。いいものを模倣するのはいいけれど、仙台と同じことをやっても仕方がない。独自性といふことになると懸垂幕はいいですね。

貝原 これはぜいたくな夢なんですけど、ポートアイランドからフリワードまで、毎年毎年参加した作家とか彫刻家で、たとえば川重の鉄板を使って彫刻をつくつたりする。毎年二基づつ揃える。

妹尾 もボツとなくなるのじゃなくて、まつりが済んだら何かもボツとなくなるのじゃなくて、まつりがどこかに残していくみたい。カーニバル彫刻、カーニバル

ラケた連中も入ってくるんだよね。

妹尾

まつりというのはあくまで楽しんだらいいんですよ。不景気になればなるほど、もっとやれやれというようなものでね。その辺からいうともうちょっとハメを外さなアカンなど感じますね。

貝原 ハメ外したいね。

川端 各地区での若い人の参加の仕方というのはどんなものですか。

貝原 若者は須磨の音楽の森、兵庫は子供中心。青年といえば青年広場と芸術広場ですね。

妹尾 神戸まつりには参加賞ってあるでしょ。あれをバッヂみたいなものにして、神戸市民がワシンはまつりに参加したぞと胸を張つて、三つたまた、四つたまたと自慢できるようなことがあるともっと楽しいね。

★裸になつてまつりを楽しもう

山脇 今までからどことも予算の面で多少さびしいなという感じがするのですが、そういう表向きの金以外に、それぞれの団体とか市民がかなり身銭を切つてやってるんですね。

妹尾 まつりといふものは、人から金を出してもらってまつりをやつたんじやあんなに楽しめないですよ。やっぱり、まつりってのは

自分で金出して楽しんでこそ本當に自分たちのまつりになるのと違うかしら。まつりには自分で金を出して踊ろうじゃないか、遊ぼうじゃないかという気持ちを育てていきたいなあという感じがしますね。大事にしたいですね。

それと青年層のリーダーの人たちが普段の背広姿をかなぐりして、いわば、シャツ一枚になってまつりにとけ込んでくれたらね。

貝原 各個人がバラバラになって各地域へ入つてもらいたいね。

妹尾 そうなれば地域での青年との接触がすい分と違つてくるんでしょうね。主婦としても地域で泥まみれになつてまつりのなかに入り込まないと駄目なんですよ。エエかつこうするなということですね。

まつりにはエエかつこうするのがおつたらアカンのよ。みんながヌックになって泥かぶつてでもやろうか、というのがまつりの原動力なのよ。まつりとは地域が盛り上がるこことじゃないかな。極端にいえば中央の行事はぶつぶれていいんじゃないかなあ。

貝原 結論的にはそなだけれども、ただ、今のところ中央のいものがぶつぶれるほどのいいものを地域ではつくつてないですよ。兵庫区とか垂水区とか意欲的なところは別ですが、お茶を濁し

ているところがありますからね。妹尾 私どもには中央に負けるなという意識があるね。中央のパレードで踊るなら地域で盛り上げた方がエエやないかとね。その方が地域住民とつながるでしょう。

貝原 ところで、ファッショングル市といふこととまつりとはつながるんですね。ファッショングル都市の基礎は芸術広場にもあるんです。おまつりファッショングルがどんな形になるかというと、普段から

ファッショニン意識がないと、やっぱり、ハッピにハチマキになるでしょ。そなならないようにパレードとか芸術広場とか青年広場とかで頑張ろうということですね。

山脇 私どもとしては、今やつているまつりを更に充実させることしかないので、まあ、試行錯誤の繰り返しですし、まつりをやつたその時点から次のまつりを考えに行くことなんですね。そういうことで、この四回目もトライアルじゃないでしょか。その辺を市民の方に十分PRして、まつりの実体をみてもらつて本当に神戸らしいまつりはこれでいいのかということで、毎年積み重ねて行く。

そのなかから本当に神戸らしい神戸まつりが残つて行くんじゃないですか。

妹尾 神戸まつりには終着点がないということですね。（於竹葉亭）